事例 11

指導方法開発　教　材　開　発　評価方法開発

長崎県立長崎東高等学校　課題研究を軸として全教科をAL型に変容する仕掛けづくり（長崎県）

実施体制の概要

■ 全校生徒数：約840名

（うちSGH対象生徒数　440名程度）

■ SGH対象学科：

1年生は全生徒、2,3年生は国際科の生徒が対象

■ HP：http://www.news.ed.jp/higashi-h/

■ SGH委託費用総額：約4,030万円

（H27～R1：約680万円～約1,000万円）

■ 校内の体制：SGH運営委員会(5名)、SGH企画委員会(16名)のもと、各分掌、学年が役割分担。主な実働は分掌の「グローバル人材育成部」が担い、国内外の研修等を担当。

■ 国内連携機関：

長崎大学、長崎県立大学等と連携

■ 連絡先

ichinose1955@news.ed.jp

☎ 095-821-4642（代表）

何を目指したか

◉ **世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成**

ツールのポイント

1 課題探究を軸として、他教科との連動を示す授業計画を作成

2 教科のアクティブラーニング化を推進するため、組織的な授業公開を展開すると同時に、授業参観記録シートとチェックリストを開発

SGH事業実施に必要だった資源

人員　■分掌を現場の意志決定→実働部隊として運営を効率化。また、長崎大学に設置されていた高大連携担当部局との連携をSGHで本格化

金銭　■国内外のフィールドワークや、模擬国連やフォーラム等の発表機会など、生徒が学校外でアウトプットする機会に主として充当。

時間　■指定当初は国際科担当教員が主となり運営していたが、負担が大きかったことから2年目より分掌としての部を立ち上げ組織的運営に移行

心理　■進路実現する生徒の共通点にアウトプット力の高さがあるという教員間の共通理解が、発話や論理に着目する課題研究の納得感を醸成

Plan

ツール作成の背景

■古くからの海外との交流や、原爆被災からの復興という歴史を持つ長崎で育つ生徒にとって、世界平和というのは重要なキーワードであった。このような背景から、それらを体現するために、異文化交流への積極性、提言に留まらずアクションをすること、リーダーシップ及びフォロワーシップ、プレゼンテーション能力等の、育成したい資質能力を設定した。

■今までは、校内でリーダーの役割を持つ生徒は限られていたが、課題研究を通じて、多様なスポットライトが当たるように仕向けた。また、公立の進学校ゆえ文武両道で進路実現をするというベースのもと、個別試験で問われる、知識を「インテイク（課題起点で主体的に取り込む）」してアウトプットするプロセスを磨く方法として、課題探究やアクティブ・ラーニングが、その必要性に対する教員間の共通理解のもと進められていった。

■また、長崎では先導的な医学研究や、環境保全の取組等の教育資源を有していることから、その強みを活用し、課題研究では医療支援の推進や、水環境の改善等のテーマを設定している。

Do

ツールの解説

✓ カリキュラムマネジメントシート

取組概要

■カリキュラムマネジメントと、教科横断型のアクティブラーニング型授業開発のために、**課題研究の進捗を軸として、他教科の内容との連携を図る授業計画図**を作成している。

■1年次では、地元理解・国際理解のための「ナガサキタイム」を軸として、「①基礎事項の習得」「②研究テーマの設定」「③調査・分析・考察」「④レポート作成・中間発表」「⑤レポート作成・発表・まとめ」という段階や時期に応じて、他教科でどの時期に何を教えるかが1枚の表に整理されている。

✓ 授業参観記録シートとALチェック

取組概要

■教科の中に探究的な要素を盛り込んでいく仕掛けとして、教員相互の課題改善の仕組みを設けている。

■1つは授業公開の仕組みで、SGHを契機として、教員の情報交換の垣根がこれまで以上に低くなった。

■もう1つが、授業公開の際に見学者が記入する「**授業参観記録シート**」である。気づきの点をメモする欄に加え、「**ALチェック」と呼ばれる、アクティブラーニングに係るチェック項目が示されている。**ALチェックは、連携する大学教員と協働で開発した。

Check

取組内容の評価

■探究的な学びについては、**毎年テーマを設定することで、教員の共通認識を構築するとともに、毎年の改善に繋げている。**

■例えば、指定初年度は「ともに学び、自ら深める」をスローガンとし、「とにかくやってみる」ことを教員、生徒の共通姿勢とした。2年目は「発問を磨こう」をテーマに、教科の特性を活かした発問を組み込んだAL型授業を実践。最終年度は「論理」をテーマとし、論理的考察力や研究レポート作成能力の向上に焦点をあてた。

Action

指定期間終了後のいま

■SGHで築いた基礎を踏まえ、今年度からは、水曜と金曜の7時限目を追加的に課題研究等に充てることとしている。

■平和・医療・水をテーマに取り組んできた課題研究を、SDGsと連携させ、中高を通してこうした考え方に親しみを持てるように改善していきたいと考えている。